

どう生きるのか

守山南中学校三年

關藤 ひまわり

耳をすませば友達の声、風の音、生活音など沢山の音が聞こえます。私は、耳が聞こえます。でも、世界には耳が不自由な方々がいます。友達や親せきに耳の聞こえない人はいますか？ほとんどの人は、いないと答えるでしょう。そのため、あまり日常から意識などしないでしよう。

私は、昔から耳が不自由な方が身近にいます。その方から沢山の話も聞いたことがあります。今から私の実体験をお話します。

私は、小学生から今までに二回ほど耳が不自由な方に会ったことがあります。小学生の頃は、私の妹のお友達のお母さんが耳の不自由な方でした。耳の不自由なお母さんも沢山の苦勞をされていましたが、娘さんも苦勞されていたと思います。なぜかというと、お母さんのために手話を勉強しどこかに出掛けるときは翻訳担当として頑張っていたからです。お友達と遊びに行きたくても、弟や妹もいるため自由に行動できることは少なかったと思います。ですが、その子はいつも笑顔で接していました。そして幸せそうでした。私は、耳の聞こえない人のことを可哀想って思っていました。でも、本当はそんなことを思っている自分自身が可哀想でした。差別なんかしないと思っていたけど、心の中ではしていたんです。皆も、無意識にしてるのかもしれない。私は、この経験をしてからその子に手話を教えてもらったり、知らないことを知ろうと努力しました。中学校に入学し、二年生になり職場体験がありました。職場体験先のお客様が耳が不自由な方でした。私は、手話を小学生の頃に

勉強していましたが、すっかり忘れていました。私は、どう対応すればいいのか分からず焦っていましたが、5日間の間に何度かお話をすることが出来ました。頑張って手話をしているすがたを見て、お客様はものすごく喜んでくれました。私は、嬉しかったです。出来ないことが出来るようになり、知らないことが一つなくなり、人を笑顔にすることが出来たからです。この経験は、とっても宝物になりました。私の人生での実体験は、どうでしたか？私は、この経験から沢山のことを学ぶことが出来ました。

私は、この経験から自分の知らないことを知ろうとし、自分の中での基準をなくすということが大切だと学びました。知らないことを知れば正しいことを知れます。私は、これから学んだことを忘れず生きていきたいと思います。あなたは、どう生きていきたいですか？